

La Maison Historic Car Meeting in LAGUNA 2010

ラ・メゾン ヒストリックカー イン ラグーナ2010

◎2010年7月18日 @愛知県 ラグーナ蒲郡
text&photo:Hiroyuki KONDOU(近藤浩之)

走りと展示を一度に楽しむ

今年の暑い夏が始まった7月、愛知県蒲郡のラグーナ蒲郡を基点として行われた「ラ・メゾン・ヒストリックカー・ミーティング」。このイベントは1980年までに生産されたモデルで競うタイムラリーと、ビンテージカー&スーパーカーを中心とした展示イベントを併催したもの。地元愛知のヒストリックラリー愛好家やショップなどが中心となり、競技イベントが少ないという愛知エリアのタイムラリーの底上げと、地域の子供達との交流などを目的に行われたものだ。

ワンデイで行われたタイムラリーは美しい三河湾沿いなどを走る約100kmのコースで、途中SSなどが設けられた本格的なものだが、イベントの趣旨が愛



「ラ・メゾン・ヒストリックカー・ミーティング」のタイムラリーイベントは、実行委員の天野さんが乗るジャガーEタイプが先導車としてスタート。



1台ずつレッドカーペットの上からスタートを切る。こういった演出も参加者には嬉しいところだ。写真は、1973年式ジャガーEタイプSⅢFHC。



一列に整列し、ラ・メゾン・ブランシュの前を次々とスタートしていく参加車。写真は1963年式ジャガー3.8Sなど、英国車での参加が多かった。



ナンバーを見る限り東京から参加した、1957年式フィアット・アバルト750GTザガート。地元だけでなく、愛知県外からの参加車も多数見られた。



いすゞがノックダウン生産を行い販売していた、1964年式ヒルマン・ミンクス。この他、SPやスカイラインなどの国産車もイベントに参加していた。



1966年式アストン・マーティンDB6など、イベントでなければこうしたクルマを見ることも、オーナーと会話をする機会も少ないだろう。



知エリアのタイムラリーの底上げということもあり、ビギナーにも分かりやすいコースとなっていた。実際、ラリーに参加した48台中、約半数がビギナーもしくはそれに近いエントリーだったという。そのため、オーナー同士初対面ということが多くスタート前やゴール後に行われた、フレンチレストランのラ・メゾン・ブランシュの食事で親睦を深める参加者も多かったようだ。またナビゲーターを含め、子供との参加が多かったことも印象的だった。

ラリーと併催された展示イベント「ラ・メゾン・サマーミーティング」では、一般公募されたお子さん達を対象にしたスーパーカーの体験乗車なども行われ、ヒストリックカー趣味の将来を担う子供達にクルマに興味を持ってもらうための試みも行われていた。

「愛知エリアで、クルマ好きの仲間を作りたいという人も多いです。そういった人達(お子さんを含め)

にもイベント性の高い競技を通して、タイムラリーの面白さを知ってもらい、クルマ好きの仲間を増やしてもらいたかったんです」と語る実行委員の天野さんの言葉通り、その趣旨はこのイベントに参加したオーナーや子供達にも伝わったことだろう。実際、競技終了後の食事会や、阿波踊りなどのアトラクションも用意された表彰式にも多くの競技参加者などが出席し、クルマ好き同士の交流を深めていた。

今回が初めての開催となった「ラ・メゾン・ヒストリックカー・ミーティング」。来年も開催したいということなので、中部エリアのヒストリックカー好きは仲間を増やしに出かけてみてはいかがだろうか。

■問い合わせ先
イベント事務局
e-mail:kayo-cox@nifty.com



ラリーイベントと併催された「ラ・メゾン・サマーミーティング」には、スーパーカーなどに加え、BMWイセッタなどのオーナー車も展示されていた。



幌を開き、窓を全開にしてスタートする、1980年式シトロエン2CV。この日は気温も高く、クルマとオーナーはタイムと共に暑さとも戦うこととなった。



ラ・メゾン・サマーミーティング内のイベントのひとつとして行われた、エンジンサウンドコンテスト。様々なクルマが観客にエンジンサウンドを披露。



トップを開けて走行していたということで、フィアット・チンクエッタ・ヌオーバのオーナー&ナビゲーターともかなり日焼けしたご様子だった。



ラ・メゾン・サマーミーティングのヒストマ。参加車はパーキングにクルマを停めて展示。こちらは展示イベントということで、のんびりした雰囲気となっていた。

ロータスヨーロッパ、トリアンプTR4と英国車のランデブー走行で駿河湾沿いの道を走り抜ける、1961年式MGミジェットMK-1。



ホワイトのボディカラーが眩しい、1954年式シボレー・コルベット。暑い中、ほとんどのオープンモデルのクルマは、トップを開けて走行していた。



アバルトとランデブー走行するアルファ・ロメオ・ジュリエッタ・スパイダー。走行順が生産国に並んでいることが多いためこの様なシーンも多く見られた。



トップから手を振る姿が微笑ましい、フィアット・チンクエッタ・ヌオーバ。炎天下でのラリーだが、参加者は実に楽しそうだった。



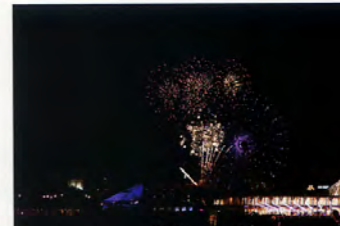
ラ・メゾン・ヒストリックカー・ミーティングは1980年生産車が参加資格となっているが、特別にエリゼなど最新モデルも参加してイベントを満喫。



エントリー車種は英国車が多かったが、国産車も多休ヨタ2000GTはこの1964年式の他に、1968年式の1台も参加していた。



タイムラリーのコースはワンデイで約100km。コースには海岸沿いなども含まれていた。写真は駿河湾をバックに走る、アルファ・ロメオ1600GTジュニア。



競技終了後に行われた食事会&イベントの表彰式の会場からは、ラグーナ蒲郡のマリーナをバックに、夏の夜を彩る打ち上げ花火も観賞できた。



ガルウィングを開けて整列するランボルギーニ・カウンタック。イベントで見ることが出来ないようなこの光景に、カメラを向ける人も多かった。



ラ・メゾン・サマーミーティングで見学者の注目を一際集めていたのは、やはりフェラーリやランボルギーニなど新旧のスーパーカーが並ぶ一角だ。



新旧ランボルギーニが勢揃い。奥のカウンタックLP400を見たことがある読者も多いのでは? 自走で参加した自動車評論家の西川淳さんの所有車だ。



展示の他に事前に公募し当選した子供達がスーパーカーなどに体験乗車できるイベントも行われるなど、大人から子供まで楽しむ事ができる。



新旧のスーパーカーオーナーが数多く参加しており、やはりスーパーカー世代にさがるランボルギーニ・ミウラは注目の的だ。



タイムラリーイベントと併催された、展示イベント「ラ・メゾン・サマーミーティング」には、スーパーカーなど新旧のクルマが参加し展示された。